



Title	no sé qué+Nを含む不定wh名詞句の文法性について
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 1993, 17, p. 33-43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93804
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

[研究ノート]

no sé qué + N を含む不定 wh 名詞句の文法性について

出口 厚 実

0. 現代スペイン語には(1)(2)の下線部に例示されるように, no sé または類似の意味を表す動詞形と疑問形容詞が名詞に先行して一種の不定限定句として働く構造が見られる。

(1) Hace unos días, en no sé qué emisora oída de noche, y entre no sé qué interlocutores ilustres, oí una conversación.(*EL PAÍS*, 92/03/28)

(2) Y ahí en el consulado él estaba haciendo no sé qué trámite, engorrosísimo, sobre acuerdos de impuestos entre los dos países, para algún cliente lleno de plata.(Manuel Puig : *Cae la noche tropical*, p. 24)

これらの「no sé qué + 名詞」語群は出口 (to appear) で『不定 wh 表現』と名付けられた, 特異な統語的組成をもつ諸形式の1つである。不定 wh 句の末尾に現れる疑問形容詞は qué, cuánto, cuál のいずれかで, 一見, 先行動詞の直接目的語節に埋め込まれた間接疑問文頭部の残滓のように見える。しかし, その前方の「不知・無知・不定」を表す可變的部分については, どのような語彙の動詞が使用され得るか, またその時制・人称が必ず1人称単数形に限定されなければならないか, etc. に関しては, 筆者の知る限り, 文法家の記述や考察がなされていない。

既に他所(出口1991b, to appear)で指摘した通り, 『不定 wh 表現』自体がその統語的基盤の不安定さゆえに, 文法性の度合にかなりの振幅を

許すことが観察されている。他方、この形式が上位文のどのような統語環境に置かれるかという点も、その成立可否の条件となる可能性がある。このような変異の範囲や個人差の実態を明らかにするため、限定された下位タイプのみを対象とするが、今回小規模なインフォーマント調査を試みた。第1節では実際の調査方法の概略を示す。第2節は回答結果の数値を紹介し、それらに簡略な考察を加える。併せて調査の過程で得られた関連のコメントについても触れる。最後に、回答者、文例別のクロス集計表を第3節に掲げる。

1. 調査の概要

- (1) 目的：“no sé qué + N”型の不定 wh 表現の文法性の度合を、特に「不定部」の人称・時制を変数として、比較しながら明らかにする。
- (2) 回答者：合計16名の内訳
 [出身地 & 居住国] España 4, Chile 2, Puerto Rico, República Dominicana, Cuba, Guatemala, Panamá, Colombia, Argentina, Perú, Uruguay, Ecuador 各1（ただし、このうち3名についてはサンプル文の約半数のみに回答を入手できた）
 [性別] 女9, 男7
 [職業] 教師12, 大学院生3, 公務員1
- (3) 方法：文章として作例した55の短文を1枚または2枚の用紙に一括して見せて、許容性の程度を評価するように個々の協力者に依頼した。完全に許容される文と、全く不可能なものに中間の2段階（やや不可?, まれ??）を加えて4段階に区分するように示唆したが、回答者の中には、可／中間／不可の3階梯を適当と判断して答えた人、及びさらに精密に5段階が必要として評価した人が若干名含まれる。
- (4) 実施時期と場所：1992年1月-6月
 マドリード及びサンチアゴ・デ・コンポステラ

2. 調査結果

アンケートの対象となったのは、A1, B2のように英大文字とアラビア数字の連番を付した以下の文である。ただし、調査時にはこのようにグループ化して提示されたのではなく、第3節の[表1]に記載された順序

で判定を依頼した。文の参照番号と例文の間に全回答者の平均評点を無印 (=O.K.), ?, ??, * の 4 段階で示している。計算法は個人別の前記 4 段階評価を, それぞれ 10, 6, 3, 0 ポイントと換算して回答者の平均値 (文末の [] に記されている) を出した後, 次の 4 区間に分類したものである:

10 -- 無印 -- 7.5 -- ? -- 4.5 -- ?? -- 2.0 -- * -- 0

() 内にローマ数字で記した文は, 調査実施時に, 参考のため 1 人または複数の協力者に確認した関連構文か, あるいは彼らから比較参照するように提示されたものである。

A1 El médico me recetó no sé qué medicina. [10.00]

A2 El médico le recetó no sé qué medicina. [10.00]

A3 ?? El médico me recetó no sabía qué medicina. [3.25]

A4 ? El médico le recetó no sabía qué medicina. [5.44]

A1, A2 は典型的な不定 wh 表現 no sé qué^(注1) を含む文で, 全員が文法的と認めたのは当然であるが, no sabía qué に対しては, 主動詞の間接目的語が 1 人称単数 (me) か 3 人称 (le) であるかに応じてかなりの差を示す。sabía の主語の解釈については予め明示的な指示を与えなかったが, A3 は A1, A4 は A2 のそれぞれ直後に配置されていたため, sé との類推から 1 人称単数に理解した informant もあった。また, どちらの主語を指示するにせよ不可能と判断するコメントを加えた回答者もあった。

(i) a. *El médico_i me recetó no sabía_i qué medicina.

b. *El médico me_i recetó no sabía_i qué medicina.

A4 を完全に容認した 6 名に対して, A3 に十全な適格性を見たのは 1 人であるのが対照的である。上のデータ A1 - A4 は, いずれにせよ, 不定 wh 表現の中の動詞が一般の従節動詞と主動詞の間に見られるような時制呼応が適用されにくいことを確認するのに役立つ。なお, 蛇足であるが saber を否定しない sé qué + N 構文なるものが成立しないことは言うまでもない:

(ii) *El médico me recetó sé qué medicina.

B1 ? El médico me recetó yo no sé qué medicina. [7.19]

B2 ? El médico me recetó no sé yo qué medicina. [5.63]

yo no sé qué/no sé yo qué の文法性がかなり高いのは注目される。特

に前者を完全に許容した人が7名に達し、反対に不可の印をつけたのは1人だけであった。また、大半の回答者は B1/B2 の間に何等かの受容性の差を認めた。その場合、B1の方がより自然と判断したのが7名で、逆に B2 がより許容されやすいとするのに2名が該当する。

C1 *El médico me recetó qué sé yo medicina. [0.81]

C2 *El médico me recetó qué sabía yo medicina. [0.38]

C3 ?? El médico me recetó una medicina qué sé yo. [2.31]

qué sé yo qué の変種として「不定部」のみの qué sé yo はほぼ確実に非文とされる。C3 が若干の人々に許容性の余地を残すのは medicina と qué sé yo の間に休止を置く発話方式での読みが干渉するためと思われる。

D1 ? El médico me recetó no sabes qué medicina. [6.44]

D2 ?? El médico me recetó no sabías qué medicina. [2.13]

D3 ? El médico me recetó no sabemos qué medicina. [7.30]

D4 ?? El médico me recetó no sabíamos qué medicina. [4.31]

1 人称単数以外の動詞がどの程度容認されるかをテストする上記例文では、2 人称単数よりも 1 人称複数の文法性がやや高いことがわかる。ただし、D1 と D3 の間に評価の差を設けた8人のうち、no sabes qué の方に高得点を与えたものが3人見出された。対話者に対する親称として vos が優勢な地域の方言の話者では、この表現に限らず 2 人称単数形は非日常的な形式と受け取られ、判定にマイナス方向へ作用しているはずである。因に、スペイン人 informant 4 人は全員 D1 を文法的としている。no saber の主語が 1 人称単数以外でも、総称的主語の代理として機能できるケースでは、不定 wh 表現に用いられるのではないかという予想から no se sabe も調査項目に含めた。

E1 ? El médico me recetó no se sabe qué medicina. [6.88]

E2 ?? El médico me recetó no se sabía qué medicina. [2.75]

結果は D1 の no sabes とほぼ同等な受容性をもつことを示している。

F1 El médico me recetó Dios sabe qué medicina. [9.06]

F2 ?? El médico me recetó Dios sabía qué medicina. [2.75]

F3 El médico me recetó quién sabe qué medicina. [9.00]

F4 ?? El médico me recetó quién sabía qué medicina. [2.44]

動詞 saber が肯定形で出現しても語用論的に否定が含意され、no sé と

等価な *Dios sabe qué* や *quién sabe qué* は殆ど完全に受け入れられることがわかる。ある回答者の指摘によれば、F1 に関しては、語順を入れ換えた (iii) や未来時制の (iv) (v) も可能である：

(iii) *El médico me recetó sabe Dios qué medicina.*

(iv) *El médico me recetó Dios sabrá qué medicina.*

(v) *El médico me recetó sabrá Dios qué medicina.*

‘no sé qué’ はその意味機能面で一種の不定形容詞に類似するため、他の限定詞との共起可能性が問題となる。G1-G4 で不定冠詞または *cierto* に先行された *no sé qué + N* を含む文の許容性が著しく低下することが確認される。

G1 ?? *El médico me recetó una no sé qué medicina.* [2.06]

G2 **El médico me recetó una no sabía qué medicina.* [1.13]

G3 ?? *El médico me recetó cierta no sé qué medicina.* [2.13]

G4 **El médico me recetó cierta no sabía qué medicina.* [0.75]

‘no sé qué’ を 1 つの不定形容詞に対応するような語群と仮定すると、次のような後置語順は可能なのだろうか？

H1 ?? *El médico me recetó una medicina no sé qué.* [3.38]

H2 **El médico me recetó una medicina no sabía qué.* [1.13]

H3 ?? *El médico me recetó una medicina Dios sabe qué.* [3.19]

H4 **El médico me recetó una medicina Dios sabía qué.* [0.94]

H1 及び H3 に関して文法的と判定した回答者がそれぞれ 3 名、また？を付した者も若干名あったとはいえ、非文とみる人々が多数で平均値は低い水準にある。

名詞後位からの連体修飾を示す類型 H の名詞句は、標準的な関係節を内蔵した構造に近く、これとの比較のために、J1 - J3 に対する文法性の判定結果を掲げておく。

J1 *El médico me recetó una medicina que no sé qué es.* [9.75]

J2 *El médico me recetó una medicina que no sé lo que es.* [9.43]

J3 *El médico me recetó una medicina que no sabía que era.* [9.13]

J4 **El médico me recetó una medicina no sé qué es.* [1.75]

主動詞 *no saber* の間接疑問節内の属詞を関係化して抽出した文は、主文と動詞の時制が一致しない J1 を含めて問題ないとみなされ、ほぼ完全

に受容される。なお、一般の関係節の場合と同様だが、ゼロ関係詞文 J4 は排除される。

K1 Me habló de no sé qué planta que había traído de África.
[10.00]

K2 Me habló de no sé qué planta de Japón que había comprado en la feria. [9.46]

K3 Me habló de no sé qué planta exótica que había comprado en la feria. [10.00]

同一名詞句内で不定 wh 表現と他の後置形容詞・前置詞句・関係節との共存に支障がないことを示しているのが例文 K1 - K3 である。

L1 Me habló de no se sabe qué planta que había traído de África. [7.69]

L2 ? Me habló de no sabes qué planta que había traído de África.
[5.15]

L3 ?? Me habló de no sabemos qué planta que había traído de África. [3.85]

L4 ?? Me habló de no sabe qué planta que había traído de África.
[3.92]

非 1 人称単数形の *saber* を含む形式については単純な構造の *no sé qué* + N (先述 D, E) とはやや異なった反応が得られた。すなわち関係節が後続する L1 の *no se sabe qué* は E1 より、幾らか文法性の度合が高くなるが、一方、L2 はタイプ D の調査文より少し許容性が低下する。また、*no sabe qué* と *no sabemos qué* の評価が逆転し、後者を伴う文は 3 人称単数の *no sabe qué* と同程度に低くランクされることがわかる。この 3 人称単数は、もちろん、主動詞 *habló* の主語と同一指示であるが、間接目的語を同一指示の *le* に変更すると文法的と認める見解もあった：

(vi) *Le_i habló de no sabe_i qué planta exótica que había traído de África.*

M1 ? Me habló de no sé bien qué planta que había traído de África. [7.15]

M2 *Me habló de jamás sé qué planta que había traído de África.
[0.46]

M3 ?? Me habló de nadie sabe qué planta que había traído de África. [4.00]

不定 wh 表現が凍結された熟語句かどうかを見る 1 つの方法として、M1 では副詞修飾成分 bien を追加し、また否定辞 no なしに否定語 jamás, nadie で否定作用を果たす文 M2, M3 をテスト用に作成した。意外にも no sé bien qué を完全に受け入れる回答者は 6 名もあり、他の informant も ? か ?? を付して、全く不可能とした人は無かった。M3 に関連して、planta の後ろの関係代名詞を削除した文 (vii) を許容できるとコメントを寄せた回答者もあった：

(vii) Me habló de nadie sabe qué planta había traído de África.^(注2)

N1 Había no sé cuántas plantas exóticas en el jardín. [10.00]

N2 Había no se sabe cuántas plantas exóticas en el jardín. [8.62]

N3 ?? Había plantas que no sé cuántas son. [4.33]

N4 *Había plantas no sé cuántas son. [1.62]

N5 ?? Había plantas no sé cuántas. [3.85]

上掲のグループは 'no sé cuánto + N' とその変異形についての調査文である。wh 要素が qué の場合と同様、no se sabe は no sé より少し数値が下回るものの、許容範囲内にあることが確かめられる。しかし、「いくつかわからない、その数がわからない」を意味する間接疑問文内部の wh 数量詞を関係節化した文 N3 は好まれないのが 'N + que no sé qué es' と対照的である。一方、no sé cuántas の後置語順 N5 については H1 と同程度の評価を受けている。

P1 *Me habló de otra no sé qué planta que había traído de África. [1.38]

P2 *Había muchas no sé qué plantas en el jardín. [1.38]

P3 Había miles de no sé qué plantas en el jardín. [8.62]

「他の」「多くの」「何千もの」を意味する数量化表現と no sé qué が両立するかどうかを見る目的で P1 - P3 をアンケート項目に加えた。mucho, otro を前置させることは不可能だが、miles de^(注3)の補語位置で、同一名詞句内の限定語として共起し得ることがわかる。P1 については、no sé qué otra の語順ならば可とする informant も見られた：

(viii) Me habló de *no sé qué otra planta que había traído de África.*

Q1 Allí había *no sé qué* pequeñas plantas. [7.92]

Q2 *Allí había pequeñas *no sé qué* plantas. [0.46]

Q3 ?? Allí había pequeñas y *no sé qué* plantas. [2.08]

形容詞 *pequeño* は一般に名詞に先行する例が多いが、*no sé qué* と共に多重使用ができるのは *no sé qué* の後位で *plantas* を修飾する Q1 の語順に限られるようである。

R1 *¡Qué *no sé qué* planta tan bonita!

R2 *¡Cuántas *no sé qué* plantas tienes aquí!

疑問形容詞 *qué* または *cuánto* に *no sé qué* + N を組み合わせた感嘆文 R1, R2 はほとんどのインフォーマントにより排除される。

3. 集計一覧

アンケートで回答者に提示した作例文の配列順は次の通りであった：

[表 1]

A1, A3, F1, F2, E1, E2, B1, B2, C1, C2, D1, D2, D3, D4, F3, F4, J1, J2, J3, H1, H2, J4, H3, H4, G1, G2, G3, G4, C3, A2, A4, K1, L4, L1, K2, K3, N1, N3, N4, N5, N2, P3, P2, P1, L3, L2, M1, M2, M3, Q3, Q1, Q2, R2, R1.

回答者／例文別の文法性の評価の内訳を下表に示す。○は適格と認められる文、*は非文と見なされる文、? と ?? は両者の中間に位置するものとする。なお、インフォーマントの中には? / ?? の区別をしなかった人、? と * の間にさらに? * の段階を設けた人も含まれる。右端の数値は○, ?, ??, (? *), * にそれぞれ 10, 6, 3, (2), 0 の得点を割り振って平均値を求めたものである。/ を記した欄はその文が質問されなかったか、あるいは無回答であったことを示す。

[表 2]

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	14	16	
A1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00
A2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00

A3	*	?	?	?	*	*	○	*	*	?	?	?	*	?	*	*	3.25
A4	*	?	??	○	?	*	○	*	○	?	?	○	*	○	*	*	5.44
B1	?	?	○	*	??	○	○	?	○	○	○	○	?	?	?	?	7.19
B2	○	??	○	*	??	?	?	?	○	○	○	??	○	*	*	??	5.63
C1	*	*	○	*	*	*	*	*	*	*	??	*	*	*	*	*	0.81
C2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	0.00
C3	*	?	?	*	??	*	*	*	*	?	?	*	○	??	??	*	2.31
D1	○	○	○	○	??	??	?	?	○	○	○	??	??	??	?	*	6.44
D2	*	??	?	*	*	??	○	*	?	??	??	*	*	*	*	*	2.13
D3	??	○	○	○	??	○	○	?	?	○	○	○	○	○	*	*	7.38
D4	*	?	?	?	??	○	?	*	?	??	?	○	?	??	*	*	4.31
E1	?	○	○	○	?	*	○	?	○	○	○	○	?	*	?	*	6.88
E2	*	?*	○	*	??	*	?	*	??	??	?	?	??	?	*	*	2.75
F1	○	○	○	○	○	?	○	○	○	○	○	○	○	○	??	?	9.06
F2	*	?*	??	*	*	?	?	*	??	?	??	?	*	?	??	*	2.75
F3	○	○	○	○	?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	?	?	9.00
F4	*	??	?	*	*	*	○	*	*	?	?	?	*	?	*	*	2.44
G1	*	?*	○	*	*	*	*	?	*	??	?	?	*	*	*	*	2.06
G2	*	*	?	*	??	*	*	*	*	*	??	?	*	*	*	*	1.13
G3	*	??	○	*	??	*	*	??	?	?	*	?	*	*	*	*	2.13
G4	*	*	?	*	*	*	*	*	?	*	*	*	*	*	*	*	0.75
H1	*	?	○	*	*	*	??	?	*	○	??	○	??	??	*	*	3.38
H2	*	??	??	*	*	*	??	*	*	??	??	*	??	*	*	*	1.13
H3	*	?	*	○	*	*	○	?	*	○	??	*	?	*	*	*	3.19
H4	*	??	*	*	*	*	?	*	*	*	*	*	??	??	*	*	0.94
J1	○	○	○	○	○	○	○	○	?	○	○	○	○	○	○	○	9.75
J2	○	○	○	○	○	○	○	○	/	○	○	○	?	○	?	○	9.43
J3	○	○	○	○	○	*	○	○	○	○	○	○	○	○	?	○	9.13

J4	*	??	*	*	*	??	*	*	*	o	*	?	?	??	*	*	1.75
K1	o	o	/	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	/	o	o	10.00
K2	o	o	/	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	/	??	o	9.46
K3	o	o	/	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	/	o	o	10.00
L1	?	o	/	/	?	?	o	??	o	o	o	o	o	/	?	??	7.69
L2	?	o	/	/	*	*	o	*	??	o	o	?	??	/	??	?	5.15
L3	*	o	/	/	??	??	?	*	??	?	o	?	??	/	*	*	3.85
L4	*	?	/	/	??	o	??	*	?	??	*	o	o	/	*	*	3.92
M1	??	o	/	/	?	?	?	?	??	o	o	o	o	/	??	o	7.15
M2	*	??	/	/	*	*	*	*	*	*	??	*	*	/	*	*	0.46
M3	*	?	/	/	??	??	o	*	*	o	o	o	*	/	*	*	4.00
N1	o	o	/	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	/	o	o	10.00
N2	o	o	/	/	o	o	o	*	o	o	o	o	o	/	?	?	8.62
N3	o	o	/	/	?	??	?	*	*	?	?	??	*	/	?	*	4.23
N4	*	?	/	/	??	*	??	*	*	?	*	*	??	/	*	*	1.62
N5	*	?	/	/	*	*	?	*	?	??	?	*	o	/	o	??	3.85
P1	*	??	/	/	??	*	*	??	*	o	o	?	??	/	*	*	2.92
P2	*	??	/	/	??	??	*	*	*	??	?	*	*	/	*	*	1.38
P3	o	o	/	/	o	o	??	o	o	o	o	?	o	/	??	o	8.62
Q1	?	o	/	/	o	o	?	o	o	??	o	?	?	/	?	o	7.92
Q2	*	??	/	/	*	*	*	*	*	*	??	*	*	/	*	*	0.46
Q3	*	?	/	/	??	??	*	*	*	?	?	*	??	/	??	*	2.08
R1	*	??	/	/	*	*	*	*	*	?	*	*	??	/	?	*	1.38
R2	*	??	/	/	*	*	*	*	*	*	*	*	*	/	*	*	0.23

[注]

1. 本報告の回答者に含まれていない別の informant (スペイン人) は A1, A2 の疑問詞 qué にやや難色を示し, cuál の方がより適当とコメントした。なお, 調査協力者の中には qué の代わりに cuál も受け入れるケースと qué の方を好むという両方の判断が見られた。
2. この文は拙稿 (1991a,b, to appear) で取り上げた, いわゆる主要部内部型の関係節として, 「不定 wh 句」よりも典型的なタイプに属す点で興味深い。
3. 同種の表現として, cantidad de, la mar de, montones de, mogollones de + no sé qué を可能とする informant があった。

*本稿のデータを得るためのアンケートに協力していただいた下記の諸氏に心から謝意を表したい。特に, Ignacio Bosque, Tomás Jiménez Juliá 両氏は関連構文の分析や解釈の疑義に関して, 再三の質問や長時間の議論を厭わず多くの示唆を下さった。また, Rodrigo Him, Moris Polanco 両氏からも有益なコメントを少なからず頂戴した。
 〈ABC順〉 Adolfo, Marisa Amado, María Antonieta Andión, Ignacio Bosque, Carla, Aida Carrero, Patricia Fernández, Ana María González Esteban, Rodrigo Him, Tomás Jiménez Juliá, Diana Orella, María Isabel Parma, Moris Polanco, Agustín Rodríguez, Juan Pablo Rodríguez.

REFERENCES

- 出口厚実(1991a) 「関係節と非関係節の狭間」—第11回 SELEK 研究報告.1991.8.26 於 埼玉県 Athleisure Club Hotel Heritage.
- (1991b) “Oración de relativo con núcleo interno”-*Lingüística Hispánica* 14, pp.19-24.
- (to appear) 「スペイン語の不定 wh 表現について」-大阪外国語大学論集 No.8.